**■災害エスノグラフィー（要約版）**

（本編は、長編7,000字・短編3,000字程度）

Ａ氏：68歳・女性、倉敷市真備地区在住、住居全壊、洪水浸水想定5ｍ程度

夕方の6時半頃、避難勧告が出ているのをエリアメールで知っていた。小学校の体育館に行ったが、誰も避難していないので家に帰って、末政川の水位を一時間ごとに、土手に上がって見ていた。

夜12時頃、反対側の堤防が決壊し、そこから流れ出た濁流で家が流された。一緒に見ていた主人は、向こう側が決壊したら、こっちは決壊しないだろうと思っていた。

でも、息子のお嫁さんに「やっぱりお母さん逃げようよ」と言われ、避難しようと薗小学校に行ったけど、いっぱいで総合体育館に逃げました。

民生委員をやっているので、避難行動要支援者名簿だけを持って行きました。私と、息子の嫁さんと孫2人で避難する時に、近所の人に「川の向こうは堤防が切れて危ないよ。」と、声をかけて。

Ｂ氏：69歳・男性、倉敷市真備地区在住、住居全壊、洪水浸水想定5ｍ程度

家に帰ったのが夜の9時ぐらい。200メートルぐらい先の堤防に上がり、川の水位を見たら、このまま上がってきたら越水とか、氾濫とかありうると少し感じました。

その後、排水機場を運転している友達と会い、「このまま雨が降り続いたら、Bさんの団地が浸かるかもしれないよ」と言われ、避難の準備をしようと思いました。

だけど、本心では、そこまでは心配しなかった。とりあえず逃げとったら明日は帰れるだろうと。

夜の９時半頃、家に帰って、隣近所に避難準備をするよう声をかけた。8軒か9軒ぐらいの小さな団地ですが、日頃から見守り活動をしている3人の高齢者や隣近所に住んでいる若い世帯にも声をかけた。

夜10時過ぎには、避難勧告（洪水警戒）を知らせる広報車が来て、避難したほうが良いと判断し、もう一度、皆さんに声をかけた。

Ｃ氏：60代後半・女性、倉敷市真備地区在住、住居全壊、洪水浸水想定5ｍ程度

6日(金)の晩、長女が、雨を心配して、家に来てくれました。

夜の9時半頃、長女が帰るときに外へ出たら、道が浸かる寸前でした。

その後、主人と二人で家にいたら、夜10時半頃に、停電になったので懐中電灯を持って、浸水の様子を見にちょくちょく外へ出ていました。

次の日7日(土)の早朝、明るくなって気付いたら庭に水が来ていて、もう外に出られなかった。水が腰の高さぐらいまできていて、流れもあって。

家の2階に上がるしかなかった。それからは速かったです。ザーッと。水があんなに速く上がってくるとは思わなかった。

もう、そこから全然動けなくて、階段を数えていたんです。水が上がってくるのを、あと何段。あと何段と。主人が、「あと何段だ？」というから、「もういっぱいよ」と言って、ベランダへ逃げました。